第1回 「外国人との共生社会」実現検討会議 議事概要

1. 日時：平成24年5月24日 16:45～17:20
2. 場所：合同庁舎5号館3階特別会議室
3. 出席者
中川大臣、後藤内閣府副大臣、大島総務副大臣、山口外務副大臣、高井文部科学副大臣、西村厚生労働副大臣、岩本農林水産副大臣、谷法務大臣政務官、北神経済産業大臣政務官、米田警察庁次長、財務省大臣官房審議官、国土交通省総合政策局審議官
4. 議事要旨
 - (1) 大臣挨拶
 - ・ 少子高齢化、グローバル化が急速に進展する中、主として現に日本社会で生活している外国人について、有識者や現場の方の意見も聞きながら、目指すべき共生社会のあり方やそのための環境整備方策について検討していきたい。
 - ・ 各府省庁における具体的方策の検討の際には、副大臣、政務官の強力なリーダーシップをお願いしたい。
 - ・ これまで、さまざまな形で入国している外国人について、別個に議論をしてきた面もあるが、総合的に政策を講じていくことが重要だと考えている。
 - ・ 外国人の受け入れのあり方については、国民的議論が必要な、次のステップの中長期的な問題であり、今回の検討が国民的な議論の活性化に資するものになればと思っている。
 - (2) 事務局説明
 - ・ 「外国人との共生社会」実現検討会議の開催趣旨や今後の進め方について、及び外国人との共生社会の実現に向けた主な論点、検討課題の例について、説明があった。
 - (3) 外国人を取り巻く最近の状況や取組について
 - ・ 厚生労働省、法務省、文部科学省、内閣府、警察庁の副大臣、政務官等より、配布資料に沿って、外国人を取り巻く最近の状況や取組について説明があった。
 - (4) 検討会議における主な発言
 - ・ 第2ステップの議題とされている外国人の受け入れのあり方については、我が国へのインパクトが大きく、センシティブな事案。バブル期に受け入れが広がった日系人や技能実習生をめぐる問題の再検証や経済的な観点も含め、様々な意見がある問題で、時間をかけた深い議論が必要であり、慎重に取り扱うべきであると考えている。
 - ・ まずはできることから取り組むべき。外国人との共生社会の実現に向けた環境整備の具体的方策について、予算への反映も含めて、きちんと結果がでるよう、取り組むべきではないか。
 - ・ 今後、有識者からのヒアリングも踏まえながら、まずは、外国人との共生社会の実現に向けた様々な課題を整理し、どれだけ何ができるか、ということについて各府省庁においても検討を進め、とりまとめていくということによいのではないか。